

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	フレデリック西新			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 10日		～	2025年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数)	17
○従業者評価実施期間	2025年 2月 10日		～	2025年 3月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数)	19
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 20日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p>○庭とたたみのある一般家屋で、家庭に近い環境で安心感を持って過ごしています。日々の遊びや生活のなかで、無理なく楽しみながら児童の情緒の安定と心身の育成を図っています。</p> <p>○保育士が多く在籍しており、集団療育を基本に、遊びを発展させながら主体的にコミュニケーション能力や自立につながる力を身につけることを重視しています。</p>	<p>○まわりの環境から目立ち過ぎない看板表記、放課後や学校が休みの時間の時間を安心感をもって過ごすことができる家庭的な環境づくりを行っています。</p> <p>○下校後のおやつは、学校と放課後の区切りの時間としてリフレッシュしながら楽しめる時間になるよう配慮してしています。栄養・季節感・異なる味覚や食感のもの・バランス等をみながら複数から選択できるように提供しています。地元米のおにぎり等の軽食や地元の果物はとくに喜ばれています。</p> <p>○庭に出て、縄跳びなどの運動で身体を動かしたり、夏には水あそびもできます。植物の世話をしたり、メダカや蝶、野鳥にふれることで季節を感じ、自然を楽しむ体験を伝えています。</p>	<p>○食体験を増やすために、地元の料理名人を招いてうどんづくりや野草のお寿司づくりなどを行ってきました。今後も、子どもたちの希望を取り入れながら拡充していきます。</p> <p>○今年度は、日々のおやつを子どもたちと作る機会を増やし、生活スキルや知識の習得につなげたいと考えています。電子レンジクッキング、防災クッキングなどを予定しています。</p> <p>○生き物の育成記録などでは、AIを使った制作にも挑戦したいです。</p>
2	<p>○保育士、公認心理士、幼稚園・小中学校教諭、司書などの専門職が連携して、支援にあたっています。複数いる教員をめざす学生アシスタントも3年目を迎え、子どもたちに身近でありながら頼りになる存在です。</p> <p>○児童保育や保育所運営の経験もあり、時間をかけて、地元の子どもの育ちに関心のあるみなさんとの連携を深めてきました。農業、お茶、お茶、理科実験、木工、手芸、調理、囲碁やボードゲームなど外部講師の力を借りて、多彩な体験を提供しています。</p>	<p>○スタッフ一人ひとりが好きなこと得意なことを楽しみ、一人の社会人としての言動を示していくことが、子どもたちの育ちにおいて大切だと考えています。</p> <p>○講師のみなさんほなたまも、例えば「田んぼの先生」といったように、大事な人生の先輩としてお迎えしています。</p>	<p>○活動前後の読み聞かせや動画学習など活動前後の学びを拡充します。</p> <p>○3年目を迎えるお箸の先生とのお箸あそびは、記録をとったり掲示したりすることで、自己記録を伸ばすなどの目標をもてるように演出します。</p>
3	<p>○学習においては、学校・ご家庭と連携し、日々の学習習慣づけや取り組み方を身につけられるよう支援します。</p> <p>○児童保育や小学校でさまざまな子どもたちの学習をみた経験から、学校での学習内容を確実に習得することをめざしています。</p>	<p>○生活のなかで、数の概念、思考や判断につながるような学びを提供しています。</p> <p>○学びに向かう体づくり、好奇心を育む環境づくりを大切にしています。</p> <p>○低学年のうちに学習を嫌いにならないこと、苦手意識をもたないことを重視しています。</p>	<p>○2と重なりますが、理科実験の活動は増やしたいと思っています。</p>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○理学療法士、作業療法士、言語聴覚士がいないことです。	○まだ若い事業所であること、保育・教育系職には連携があるものの医療系はほとんどなかったこと、などが考えられます。	<p>○継続的な募集、条件の見直し、紹介を求めていくことを行います</p> <p>○理学療法士をめざす学生さんをアルバイトに迎えています。</p>
2	○病欠や疲れなどの欠席率が高いように感じています。	○児童の心身の健康管理にいっそう留意します。	○学校行事による心身の疲れにも配慮します。
3	○業務の効率化を図り、支援や研鑽にあてる時間を増やしていきたいです。	○業務が属人化しがちなこと、優先順位づけが弱いかもしれません。	○業務の優先づけ、取捨選択、作業の一元化、見える化、AI利用、などで効率化を図ります。